

逆も真なり—ならば10ポイント(1)

1. 努力してきたからの苦労があった。

ならば、努力するのをやめてみよう。

多くの経営者は、事業拡大の努力をしたために今日の苦しみを招いたのではないのでしょうか？人間の努力には限界があることを悟って下さい。

特に経営難に陥っている今は、努力するよりも生き残る方法を選択しなければならない時です。無理な努力をしなくても、生き残る道筋を選択しなければなりません。

2. 色々なことを積極的に行ってきたが、なかなか実らない。

ならば、消極策を積極的に実行してみよう。

すでに行ってきたことを悔いても仕方ありません。今は経費を切り詰め、徹底的な減量経営を押し進め、将来に備える時です。このスリム化は、将来業績が上向きに転じたとき、今までの数倍の加速を持たせる原動力となります。

3. 社員の生活安定の為、固定給を保証してきた。しかし、その為に人件費が高くなりすぎ苦しい状態だ。

ならば、利益に応じて支払う変動給にしてみよう。

利益を上げるに厳しい状況にあって、経費の半分近くを占める人件費を固定することこそ危険なことはありません。業績に応じて変動させることに躊躇いを持ってはいけません。

業績と人間性を加味した給与システムを作ることにより、今まで目立つ事の無かった社員が急成長したり、会社に頼ってきた社員が辞めたりと、社員の刷新を計ることができるようになります。

人財、人材、人罪の視点を持ちましょう。

4. 売上を上げようと努力してきた。しかし、なかなか上がらない。

ならば、現状の売上で利益を上げられるように工夫をしてみよう。

経営危機に陥っている会社にとって、売上を上げることはほとんど不可能です。現在の売上がどこまで下がるかを見通し、その売上でも成り立つ収支計画を立てることを考えましょう。

しかし、常識的な発想では経費の削減や売上利益率の向上など出来ることではありません。発想を変えらるとは「経費の削減は、半分にすることを考える」などです。

5. 社員の能力向上の為、教育訓練や意識改革を心掛けてきた。しかし、一向に成果が表れない。

ならば、諦めて現状の社員の実態に合わせた経営にシフトしてみよう。

人間の心を変えることほど難しいものはありません。一時は変わっても形状記憶合金の如く、すぐに戻ってしまいます。出来る社員は、初めから光っているものです。

社員一人一人は、それぞれ能力が違います。会社の方針に沿い、その能力を100%発揮させていくことが大切です。欠点を補うのではなく、長所を伸ばす考え方です。

逆も真なり一ならば10ポイント(2)

6. 顧客満足の名のもとに、お客様偏重になり過ぎてきた。

そのため経費がかかりすぎ、利益が出ない。

ならば、会社の都合をお客様に説明し合わせて頂くようにしてみよう。

「顧客満足」の言葉には、意外な落とし穴があります。顧客とは、こちらの誠意を心にかけ、省みて下さるお客様の事であり、全てがそのようなお客様ばかりではないということです。

しかし、優良客と不良客の見極めをすることは非常に難しいことです。なぜなら、こちらの心の持ちようでどちらにも転じてしまうからです。常にお客様の立場で考え、且つ自社の姿勢を厳しく問いかけ続けることが大切です。

7. 銀行との円満取引を重視してきた為に、必要以上に銀行の言い分を聞いてきた。その結果、無理な資金繰りを強いられている。

ならば、銀行との取引がなくても経営は出来ないか、と考えてみよう。

銀行はお金を商品として扱っている会社です。借りたお金を返せない事と、倒産とは別の次元で考えるべきものです。もちろん返済不能や不渡り即倒産などと考える必要はありません。

8. 売掛金回収が思うように捗らない。その為に財務状況が悪化した。

ならば、放棄してみよう。また、売掛金を放棄したらどんなメリットがあるか、考えてみよう。

回収できない売掛金にこだわるよりも、回収できないことによるメリットを考えた方が得策かも知れません。なぜならば、現在の商法や税法ではお金がなくても黒字、黒字決算でも倒産など、簡単な計算では割り切れない複雑なものだからです。

9. 自前の立派な社屋、店舗にこだわってきた。

その為に設備投資や維持費がかかり苦しんでいる。

ならば、形に一切こだわらないようにしてみよう。

立派な社屋や店舗を持つことは経営者としての夢と思います。しかし、その為に会社を倒産させる例が少なくありません。最近の急成長会社の多くは、自社の財産は持たずに地代家賃等の経費として扱っています。

環境や時代の変化にいつでも対応できる身軽さが必要です。

10. 社長として器量を磨く努力をしてきた。

しかし、その結果として会社が黒字にならない。

ならば(・・・)、自己の器に合わせた形態に変えてみよう。

努力や頑張ることは、苦労や悩みが伴います。ゲームやスポーツの世界では結構なことですが、多くの関係者を巻き込む会社経営にあっては、失敗は許されません。自分の器を知り、その器に合わせるこそが真の勇気であることを悟りましょう。